

地方自治ここにあり 首長インタビュー

濱口梧陵のふるさとの 防災と住んでよいまちづくり



質問に答える西岡町長

広川町 西岡 利記 町長

南海トラフ地震など巨大災害の近い将来の発生が懸念されるなか、和歌山県では防災対策が重要かつ緊急の課題になっています。
そうしたなか、いま注目されているのが、江戸時代に大津波から住民の命を救い災害後は復旧復興に尽力した実業家で政治家の濱口梧陵のふるさと広川町です。そこで、今号の「首長インタビュー」は、広川町の西岡利記町長に登場してもらいました。聞き手は当研究所の鈴木裕範理事長です。

稲むらの火のまち

創生総合戦略

鈴木：今日は広川町の西岡町長にお話を伺います。町長、よろしくお願います。
町長：こちらこそよろしくお願います。
鈴木：地方創生総合戦略が策定されて、間もなく1年、進捗状況はいかがですか。

町長：広川町は、「稲むらの火のまち創生総合戦略」と銘打ちまして、人口ビジョンと総合戦略を立てました。基本としては、昼間人口3000人でも、夜間人口を7000人超そうという考え方で、総合戦略を考えました。コンセプトは町外で働き住んで良いまち、子育てのしやすいまちを、ということ、環境の良いところで勉強できる、子育てしやすいなあと、そういうふうなまちにしたいということ。もう一つは、安全安心なまち、特に南海トラフ地震に備え、10メートル以上の高台へ住んでいただく。そこで、ライフラインとして新しい送水管を設けていきたいということで、29年



役場から見る広の海

度ぐらいから動き始めるところです。
鈴木：2016年、広川町が注目されました。ひとつは世界津波の日です、広川町から発信されました。来る巨大災害にどう備えるのか、広川モデルが注目されています。
町長：特段、これっていうのはございませませんが、今やっているのは、津波の避難ビル建設です。ソフト面では11月5日、津波祭っていうのがありますが、避難訓練っていうのは、ずっと続けていかなきゃいけません、やり方もいろいろ変えながら、やっていこうと考えてます。自助の部分では、自主防

目次

地方自治ここにあり首長インタビュー	
広川町 西岡 利記町長	1
海南市財政をめぐる諸問題	
—財政データをグラフにするとこんなことがわかる—	
和歌山大学経済学部准教授 中島 正博	5
ここに住み続ける、暮らすとは	
生き方や努力の仕方を次世代に	
—これからの社会教育・公民館を考える—	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市湊通丁南1丁目1-3 名城ビル3F
TEL・FAX 073-425-6459
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2017年1・2月号



防災教育の拠点稲むらの火の館

災組織は全区に設立されており、広川町の場合は、海の近くから山の奥までという、地形ですので、どうしても温度差があります。

津波津波と言われますので、特に海沿いの地域の方は、自助という面では非常に進んでいます。共助についても、だんだんと皆さん方、隣近所の高齢者の人とか独り暮らしの人をどう救っていったら、どう連れて逃げるかというのをよく考

えてくれるようになりまし
た。あとは私どもがやる仕事としては、どういうふう
にそれを仕掛けながらやっ
ていくか、で、皆さん方、
どう動いてもらうかという
形になるかというふうにい
思います。
鈴木：自主防災組織の組織
率は、100パーセント、
しかし地区によって温度差
があるということですね。
町長：そうです、うちは、
今まで11月3日は津波祭で、
そこへ耐久中学校の3年生
と、広小中学校の6年生を
つと参列させて、それが1
00年から続いている、だか
らほとんどの人は、津波祭
に来るので、濱口梧陵さ
んらが活躍して、そのとき
どんなことしたのか、要は、
地震が起こった、津波が来
る、津波が来るんだったら
高台へ逃げる、それを自分
らが率先して逃げるんだと、
ずっと教えられてきたはず
なんやな。それが、訓練で
はね、どうも生かされてな
い。「津波の聖地」や言う
てくれるのに、その割には
訓練への参加率が悪い。

現代版稲むらの火と 残る難問

鈴木：行政の防災対策は、
どうなっていますか。

町長：そうですね、独り暮
らしの年寄り、体の不自
由な方が逃げるのに20分
以上かかるのであれば、そ
の近くに避難タワーなり避
難施設を設けるべきだろ
うこと、今やっておるので、
あと2か所、できれば、ほ
ぼ一時避難場所は完成す
る。ハード面は、停電した
ときには蓄電池の避難誘導
灯や太陽光の避難誘導灯
とか、現代版の稲むらの
火について、震度5以上
揺れると自動的に避難の
サインになったりアナウ
ンスできる、そういう施
設はもうやってますので、
そこら辺は出来上がって
きたかなあ。で、あとは
一番大きな問題は、海沿
いの人を高台へ移転させ
たらどうかって言われる
んやけど、それはちよ
つと難しい。地方公共団
体が宅地分譲して、そこ
へ皆さん、なかなかし

い。そこら辺はちよつと遅
れてるかなという感じしま
すね。

鈴木：避難施設2か所は、
いつ頃完成予定ですか。
町長：30年で終わりたい。

鈴木：防災対策は着実に進
んでいるとお聞きしました。
町長：はい。どこまでがし
て完成しているものでもな
いと思いますけど、今考
えられることは着実に進
んでいると思います。

鈴木：役場は、大丈夫ですか。
町長：この庁舎自体は平成
9年に出来上がってもう20
年、です。今よく言われる
大丈夫か。うちの埋立地自
体は、海の砂で埋めてるわ
けではなくて、高速道路の
トンネルの土砂を全部放り
込んで。ここは遠浅の海
だったんで、液状化はゼロ
とは言いませんけども、非
常に起こりにくい。この庁
舎自体は、岩盤まで杭を打
つてるので、まず心配ない
というふうには思えます。問
題は津波の高さです。うち
は9・1と言われているん
ですけど、まあ10メートル
と考えると、前の堤防が、

パ
ペットの高さが7メートル
なので、3メートル超えて
くると、で、その分がどん
だけ押し寄せるかというこ
とやけど、今、考えてる中
では2階は大丈夫、3階は
絶対安全かと考えてます。
問題は、職員がこの庁舎
を見て来ないかんですよ。
町長室の隣の部屋に、水門
だとか陸開門の遠隔操作の
基地があるんです。その
遠隔操作のスイッチ押しに
来ないかんです。第1波
が来るのが35分ほどです
で、十分来られるんですけ
ど、ただ、津波に向かって
よう走ってくるかと。

鈴木：想定外をいかに想定



町と人を守る高さ7メートルの堤防



役場前に立つ濱口梧陵像

内にしておくか、ですね。
濱口梧陵に、今何を学ぶか、どうでしょう。

町長：学ぶべきことばっかりです、まず何をにおいても有事の際に、全体を見る、全体を見ながらどう対処したらいいかっていうのを考えて行動する。結局、自分の村は自分らで守らな仕方ない。トップリーダーはどう行動すべきか、ご承知だと思んですが、被災後にいろんなことをやって、広村を復興させています、

我々、学ぶべきことが多いと思います。

町中の住民層に変化 若い世代対策は

鈴木：地域のコミュニティ力、これも重要です。
ところで、広川町は昨年、歴史風致維持向上計画が国に認定されました。

町長：町のなかでも、特に重点区域と考えている地域は東濱口邸や稲むらの火の館、戸田家住宅だとか、10戸ほどがある。江戸から昭和の初期までの建物がね。その地域は浸水区域なものですから、お子さん方はもう皆、高台へ行つてじいちゃん、ばあちゃんが残る、古い家だけ残って、空き家になつたらもう潰すよという家が増えてきた。これか

らどうしていくか。道路面を歴史的風致な感じにつくりかえたり、電柱の地下埋設やつたり、いろんなことができますけども、住民がおつてですからね、やっぱり住民が住んでもらわな意味ないし、そこが難しい。

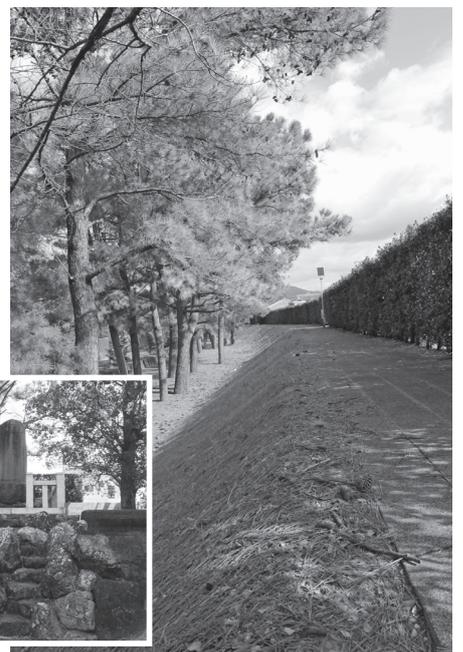
できたら観光で何とかお客さん呼べないかなあと考えてるんですけどね。

鈴木：建築物は歴史文化遺産、地域資源です。大きな魅力だと思っています。
ところで、若い世代が住むまちづくりを、どうお考えでしょうか。

町長：当然のことながら、お母さんが子育てしやすいような環境をつくるっていうのはしないかん。小学校でももう当然のことながら英語教育が必要なんで、A L Tを1人増やして2人で回してもらってる。なかよし子ども園も独自に、日本の方ですが英語を教えに来てもらってる。もつと特色ある学校をつくつたらえんちやうかと。で、29年度からは初めて、中学生を外国へ、語学留学してもらおうと考えています、広川町なりの色を出したい。

学校の統廃合はせず 存続望む地域

鈴木：今、広川町は小中学校は何校ですか。



江戸時代に築かれた広村堤防と報恩碑

町長：中学校が2校。小学校は3校。山間部に小学校と中学校が1校ずつ、津木小学校、津木中学あるねんけど、クラス4人、5人なんよね。もうね、それだといつても競争力もつかないし、運動もテニスしかできない、小学校から9年間同じメンバーなんよね。それは



山間の小学校 津木小学校

問題あるし、もうそろそろ休校か廃校かして、どうかしませんかって、おとし1年間、わいのわいのやつたけど、地元では残してと。少なくともいいと言われるんで、もうええわ、反対押し切つてまでせんところ、もうそのまま行こと。有田川では統廃校しちゃあんのよ。ほんまに何でこう違ふのつて。まあ津木中学校はホテルの環境教育で総理大臣表彰までもらつてね、その分は分かんね。ほいでもね、人数減つてきたらね、ホテルの飛翔調査でも、子どもら、自分とこの家の周





国重要文化財の濱口吉右衛門家住宅

りどころじゃないの、何キ
口も離れて見に行かんと分
からへん。人数ないから。
鈴木：地域に学校があるこ
との意味は重要です。

津木地区などは、移住の
方々も入ってきてるように
聞きますが。

町長：2軒。1軒には、3
人、子どもさんおられる。

鈴木：貴重ですね。広川町
は今、移住対策はどうなっ
ているのでしょうか。

町長：一生懸命やってるん
やけどね、なかなか進まへ

ん。

鈴木：人口減少をどう食い
止めるか、ただ、増田さん
が座長の日本創生会議がま
とめた人口予測のリポート
では、広川町の若い女性の
減少率は40%台で、和歌山
県では2040年に消滅す
る可能性は低い市町村とさ
れています。

町長：そうですね。珍しい。
鈴木：若い女性の減少率が、
相対的にみると小さいとい
うことは、女性の皆さんが
子育て、教育の面でとりあ
えず住みやすいと考えてい
ることになるのでしょうか。

町長：そうですね、ビジョ
ンつくるときも、お母さん
方の代表の方、3人ほど来
ていただき意見を聞きました
が、注文はそれほどたく
さんはありませんでした。

うちでね、私が何として
もやりたいのが、図書館で
す。ゆつくり静かに勉強も
できる図書館があったらいい
なあ。子どもから高齢
者まで、若いお母さんもお
父さんも、ゆつくり、じつ
くりね、本が読める、そう
いうふうなイメージの図書

館が私のねらいなんです。
2億か3億ためたら、何と
かなるんちゃうかなあ。公
共施設で足らんのはそれ。

目が届く町政 合併を選ばなかった町

小泉内閣のときに、平成
の市町村合併が行われまし
た。和歌山県では、50市町
村が30市町村になりました。
10年以上を経て、その成果
がどうだったのか。有田郡
では、広川町と湯浅町は合
併しませんでした。しかし、
最近再び合併の声を有田地
域で聞きます。

町長：そうですね。あるこ
とはあります。有田は一つ、
これは誰も反対しません。
で、有田市も有田川も当然
湯浅、広川。有田を一つに
するっていうときには、皆
賛成してくれると思います。
じゃあ今、現実はどう言っ
たら、町民の人に言われま
す。やっぱり合併せななん
で良かったなって。合併した
町の人に聞くと中心部から
外れた地域や山間部の人は
かわいそうやと、そうい

う言い方をするんです。
うちの議員さんでも言い
ますよ。町長、せなんで良
かったなって。なぜ合併し
なくてよかったのか、それ
はね、合併したら細かい
とこまで目届かん、それは
確か。あんな大きくなってき
たらよ、無理やわよ。僕ら
そんなことないわな。

それとね、昭和50年から
平成元年まで、うちの町は
財政がパンクして破綻し、
準用財政再建団体になって、
もう赤字財政になってしも
て、国にいろいろおんぶに
抱っこしてもらってきた。
そのあと、一生懸命、11年
間、町民が辛抱して、ずー
っときた、その間に隣、湯
浅町はバンバンやってきた、
辛抱してきてやっとなつて
て、この庁舎もそうですけ
ども、いろいろ全部、自分
らでできる。ほんで今、財
政だつて県下有数なら
いい、いい財政になった、健
全財政で行ってるし、基金
もそれほどある、だから、
それから言うと、町民の人
は、辛抱して良かったなど。
だから、皆ね、財政に対し

て厳しい。
鈴木：自主自立の気概、気
風をも育んだ結果でしょ
うか。
町長：そうですね。あの合
併のときにね、有田市と湯
浅と広川で話があつて、
私も職員で有田市行つて
みんなと、湯浅らと、ずー
っと、部門部門でやってき
ましたけど、最終的には、
石原町長でしたけど、石原
町長は、これではやってい
けんというところでやめると
言うたとき、町民が拍手し
た。それで良かった。だか
ら、やっぱりね、皆、苦労
して、ここまで来たのにつ
いていうんがある。だから、
私も町長でどれだけ力ある
どころより、財政知っ
てるさけなれ、ということ
で当選させてくれたんやと、
思うてます。

鈴木：大変難しい時代の町
政担当ですが、町民の皆さ
んの信頼に依るって、こうと
いう町長の決意をうかがっ
た気がします。ありがとうございます。
町長：ありがとうございます。